



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

7月号—No.291

2019.6.25

(毎月1回25日発行)



中之条ビエンナーレ2019(群馬県中之条町) 西島雄志《存在の力》

Photo: Fumihito Nagai

●目次／contents

特集「2019年夏のフェスティバル」

フェスティバルカレンダー.....2

夏休み子ども企画カレンダー.....5

地域通信.....7

財団からのお知らせ.....9

「地域創造フェスティバル2019」参加者募集／令和元年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」募集開始／令和元・2年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」長野セッション セミナー参加者募集／令和2年度「リージョナルシアター事業」参加団体募集／平成30年度事業報告書 ウェブサイト公開のお知らせ

令和2・3年度「公立美術館活性化事業」募集

令和2・3年度「市町村立美術館活性化事業」／令和2・3年度「公立美術館共同巡回展開催助成事業」(2か年)／令和2年度「公立美術館共同巡回展開催助成事業」(単年度)／令和2年度「公立美術館共同巡回展企画支援事業」／令和2年度「公立美術館共同地域交流プログラム助成事業」

制作基礎知識シリーズ Vol.45.....14

変わる文化庁と文化政策② 暮らしの文化と障害者への取り組み

今月のレポート.....16

静岡市 ストリートシアターフェス「ストレンジシード静岡2019」



特集「2019年 夏のフェスティバル」



恒例の「夏のフェスティバル特集号」の季節となりました。話題の大型企画から定番イベントまで、一挙にご紹介します。

2019年7月～9月 フェスティバル カレンダー

ジャンル別に、開催地、日程、事業名、事業内容の順に掲載しています。
 ㊦は会場、㊦は問い合わせ先です。
 (㊦は地域創造助成事業)

音楽

●札幌市 7月6日～8月2日
 パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌

オーディションで選ばれた世界各国の若手音楽家(アカデミー生)が札幌に集まり、芸術監督のワレリー・ゲルギエフをはじめとするトップレベルの教授陣による指導を受ける国際教育音楽祭。期間中は札幌市内各地でアカデミー生や教授陣による演奏会が約40公演行われるほか、東京、川崎での演奏会も開催される。

㊦札幌コンサートホールKitara、札幌芸術の森ほか ㊦パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会 Tel. 011-242-2211

●群馬県草津町 8月17日～31日
 第40回草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル

国内外から演奏家を迎え、講習会と演奏会から成るクラシッ

ク音楽祭。今年は、「バッハからシューベルトへ」をテーマに多数のウィーンのトップ奏者が講師を務める。40周年記念コンサートでは、エルンスト・ヘフリガー生誕100年を記念した演奏や、ジャズピアニスト・秋吉敏子を迎えた特別公演が行われる。

㊦草津音楽の森国際コンサートホールほか ㊦草津夏期国際音楽アカデミー事務局

Tel. 03-5790-5561

●川崎市 7月27日～8月12日
 フェスタサマーミュージザ KAWA SAKI 2019

東京交響楽団など11のプロオーケストラが一堂に会する毎年恒例の夏の音楽祭。今年は札幌のPMFオーケストラ、仙台フィルハーモニー管弦楽団も登場。子どもから大人、クラシック音楽入門者から愛好家まで、多くの人が来場しやすいようなバラエティ豊かな構成となっている。公開リハーサルやプレトーク、ロビーコンサートなどの関連イベントも充実。

㊦ミュージザ川崎シンフォニーホールほか ㊦ミュージザ川崎シンフォニーホール Tel. 044-520-0100(代)

●新潟県佐渡市 8月16日～18日
 アース・セレブレーション2019

1988年より30年以上続く野外

フェスティバル。国内外のアーティストが佐渡に集い、豊かな自然の中で開催される。コンサートやワークショップ、佐渡体験プログラム、マーケットなど、自然・歴史・芸能・食のすべてが一度に楽しめる。ハーバーマーケットでのメインイベント、太鼓芸能集団「鼓童」の3夜連続ライブは圧巻。

㊦佐渡市内各所 ㊦アース・セレブレーション実行委員会

Tel. 0259-81-4100

●山梨県富士河口湖町 8月10日～17日

富士山河口湖音楽祭2019

恒例のシエナ・ウインド・オーケストラスペシャル・コンサートや地元高校生とのコラボレーションを今年も開催。元ウィーンフィルハーモニー管弦楽団首席クラリネット奏者のベーター・シュミードルを招き、リサイタルとワークショップも開催する。TVアニメ『ピアノの森』をテーマにしたコンサートとクリニックも。

㊦河口湖ステラシアターほか ㊦富士山河口湖音楽祭実行委員会 Tel. 0555-72-5588

●長野県木曽町 8月23日～25日
 第45回木曽音楽祭

今年で45回目を迎える伝統の音楽祭。メインの「フェスティバル・コンサート」には、10年ぶり

写真

左上：いい大人形劇フェスタ2018(スペイン・トロサの巨人)

右上：東京文化会館「夏休み子ども音楽会2018《上野の森文化探検》」

左下：としまアート夏まつり2018「子どもに見せたい舞台『THE GIANT PEACH』」
 撮影：田中亜紀

右下：豊田市コンサートホール・能楽堂
 夏休み親子で楽しむ「わくわく能楽体験」

にメゾソプラノの白井光子が出演するほか、本音楽祭の特徴とも言える、管楽器と弦楽器の調和を楽しむことができる楽曲も多く演奏される。地元ボランティアが演奏家のために手づくりの食事を提供するなど、地域住民と共につくり上げている。

園木曽町中学校体育館、木曽文化公園文化ホール 園木曽音楽祭事務局 Tel. 0264-21-1222

●長野県松本市 8月17日～9月7日

2019 セイジ・オザワ 松本フェスティバル

恩師・齋藤秀雄の名を冠して1992年に小澤征爾が創立した「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」が、2015年より現在の名称に。世界中の音楽家が結集し多彩な演目を披露する。今年は4年ぶりにサイトウ・キネン・オーケストラ演奏によるオペラ公演を上演。小中学生に生の音楽にふれてもらう教育プログラムにも力を入れている。

園キッセイ文化ホール、まつもと市民芸術館ほか 園セイジ・オザワ 松本フェスティバル実行委員会 Tel. 0263-39-0001

●静岡市 8月4日

グランシップ音楽の広場2019

今年で12回目を迎える、音楽を奏でる人と聴く人が大空間で一体となり楽しむ特別なコンサート。プロ・アマの垣根を越え、この日のために集結した約600名のオーケストラ・合唱団が、クラシックからポップス、ロックまで、例年以上にバラエティに富んだ曲目を演奏する。

園園静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ Tel. 054-289-9000

●鹿児島県霧島市ほか 7月18日～8月4日

第40回霧島国際音楽祭2019

世界各地で活躍する50名余りの演奏家が、受講生も交えて2週間にわたり演奏を繰り広げる伝統の音楽祭。今年は鹿児島出身の世界的CGアーティスト・河口洋一郎が手掛けた映像と、音楽のコラボレーションが楽しめる豪華なアニバーサリー・ガラコンサートも行われる。

園みやまコンセルほか 園みやまコンセル Tel. 0995-78-8000

演劇・ダンス

●札幌市、函館市ほか 4月19日～7月14日

北海道舞踏フェスティバル

世界に広がる“BUTOH”と、地域に根づく“舞踏”を検証し、新時代の舞踏を模索することをテーマに、札幌を中心に北海道内4都市で舞踏公演やワークショップ、舞踏展などを開催する。今年度は、台湾のダンスフェスティバルとのエクスチェンジプログラムを実施。台北の舞踏家Hu Chiaを招き、アジア圏との舞踏ネットワーク構築も図る。

園札幌市、函館市、美咲市、余市町の各会場 園北海道コンテンポラリーダンス普及委員会 Tel. 080-5591-0098

●福島県喜多方市 8月1日～5日

2019喜多方発21世紀シアター

小学校高学年から幅広い世代のボランティアによって運営され、「0才の子どもが成人するまで続けたい」との思いで続けてきたフェスティバル。20回目を迎える今回は会期を4日間から5日間に増やし、演劇や音楽、大道芸など多彩な公演が市内各所で上演されるほか、次の20年を市民と共に考えるシンポジウムを開催。

園喜多方プラザ文化センターほか 園喜多方発21世紀シアター実行委員会 Tel. 0241-24-4611

t o p i c s

●圧巻の和太鼓300人揃い打ち 第50回市民祭 岡谷太鼓まつり

長野県岡谷市夏の風物詩「岡谷太鼓まつり」は、地域活性化のために武田信玄にゆかりのある「御諏訪太鼓」の指導のもとに始まり、地元の郷土芸能として発展・定着。打ち手は幅広い年齢層で最近では女性の打ち手も増え、太鼓連は18チームを数えるようになり、祭り以外にも国内外での演奏活動が行われ、高い評価を得ています。そんな祭りが今年で50回目を迎えます。

祭りの最大の見所は「300人の揃い打ち」。間口60mの舞台いっぱいになり打ち手300人と大小各種の和太鼓が並び、指揮者の指揮のもと、豪壮たる演奏が響き渡り、観客を圧倒します。ほかにも「みんなで楽しく、わっとやろうよ」という意味で名付けられた踊りパレード「MINAKOIわっさか」、参加者と観客とのふれあい(交流)の場となっている手づくりステージ「ふれあい広場」、街なかを練り歩く「子どもパレード・長持パレード・みこしパレード」、6月の世界和太鼓打ち比ベコンテストの優勝者が特設ステージで披露するなど、盛りだくさんの内容となっています。

「岡谷太鼓保存会も来場者に素晴らしい舞台を見せようと例年以上の猛練習をしています。岡谷太鼓まつりの存続と発展を願い、組織一丸となって事業に取り組んでいます」と岡谷市商業観光課の平林さん。49年続いた伝統を守り、時代の流れに合わせて進化し、新たな時代へのスタートを切るため、これまでの歴史を振り返るとともに、これからの50年を見据え、後継者育成やまつりの知名度と魅力向上などに取り組んでいます。



●長野県岡谷市 8月13日、14日
園イルフプラザ広場周辺
園岡谷太鼓まつり実行委員会事務局(岡谷市商業観光課内)
Tel. 0266-23-4811
<http://okaya-taiko.jp/>

メインステージでの300人の揃い打ち

●長野県飯田市ほか 7月31日～8月5日

いいだ人形劇フェスタ2019

毎年8月に開催される市民と人形劇人が共につくる人形劇の祭典。国内外から約300劇団が参加し、市内外の約140会場で400ステージ以上の公演が行われるなど、国内最大規模を誇る。飯田下伊那の市民20人による作品『人魚姫』のほか、プロ劇団やアマチュア劇団、学生団体などが参加し、多彩なプログラムが繰り広げられる。

園飯田市および近隣町村の約1

40会場 園いいだ人形劇フェスタ実行委員会 Tel. 0265-23-3552

●沖縄県那覇市ほか 7月21日～28日

りっかりっか*フェスタ (2019 国際児童・青少年演劇 フェスティバルおきなわ)

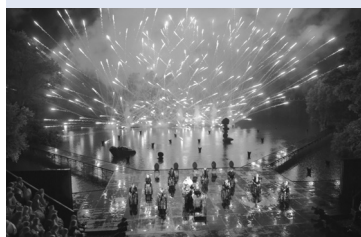
毎年夏に沖縄で開催されるファミリーのための国際舞台芸術フェスティバル。今年で開催16回目を迎え、0歳から大人まで楽しめる選りすぐりの作品が上演される。また、舞台公演だけでなくネットワーキングやシンポジウ

●利賀村を主会場に 第9回シアター・オリムピックス

世界で活躍する演劇人が国境を越えて連帯し、1993年にギリシアで立ち上げられたシアター・オリムピックス。これまで8カ国で開催され、第9回となる今年は日本とロシアでの共同開催。日本では、8月23日から1カ月にわたり南砺市利賀村を主会場に開催されます。

ご存じのとおり利賀村は、1976年に鈴木忠志率いるSCOT(旧・早稲田小劇場)が本拠地を移したのを契機に国際的な舞台芸術の拠点として再生した過疎村です。現在では、約500人の住民が暮らす山奥の豊かな自然の中に、4つの劇場、2つの野外劇場、訓練施設、スタジオ、計200人収容できる宿泊施設、キャンプ場が富山県・南砺市などによって整備され、“演劇の聖地”と呼ばれています。近年は、毎年夏に「SCOTサマー・シーズン」として鈴木演出による代表作・新作が上演され、2013年からは観劇料金を観客の自由に任せる「ご随意に」という仕組みにより、これまで演劇を観たことがなかった人々を惹きつけています。

今回はこの利賀村に黒部会場を加え、中国・ロシア・アメリカなど世界各国の優れた30作品が上演されます。プログラムには、シアター・オリムピックス国際委員の作品(鈴木演出『リア王』『サド侯爵夫人』『ディオニュソス』、ヴァレリー・フォーキン演出『2016年、今日』、テオドロス・テルズプロス『トロイアの女』、ロバート・ウィルソン『無のレクチャー』)をはじめ、野外劇場で花火を使うSCOT人気演出『世界の果てからこんにちは』、平田オリザ演出『東京ノート・インターナショナルバージョン』、宮城聰演出の野外劇『天守物語』(前沢ガーデン)など。チケットは各公演2,000円と破格で、さまざまな視点から舞台芸術を考えるトークやシンポジウムなども行われ、豊かな自然の中で舞台芸術を通じて世界と向き合う貴重な機会となっています。



●富山県南砺市、黒部市
8月23日～9月23日
富山県利賀芸術公園、宇奈月国際
会館「セレネ」、前沢ガーデン野外ステ
ージ(YKK) 舞台芸術財団演劇人
会議利賀事務所 Tel. 0763-68-2356
https://www.theatre-oly.org/
『世界の果てからこんにちは』

ム、ワークショップ等も行。日本と国交樹立100周年のポーランドを中心に世界各地の34作品、104公演を実施。
富山県那覇おもろまち周辺、宜野座村 富山県那覇おもろまち*フェスタ事務局 Tel. 098-943-1357

美術

●北海道東川町 7月30日～8月28日

第35回東川町国際写真フェスティバル

写真文化による町づくりを展開する東川町で毎年夏に行われ、国内外から多くの人が訪れる。第35回写真の町東川賞授賞式や全国の高校生が集う「写真甲子園」に加え、屋外写真展が新たに企画され、町内の景色とともに東川賞歴代受賞作家による作品が楽しめる。写真を通じた人々

のつながりをもとに、「写真の町」ならではの展示も行われる。

富山県東川町内各所

富山県東川町写真の町実行委員会
Tel. 0166-82-2111

●兵庫県朝来市 8月2日～4日 あさご芸術の森アートフェスティバル2019

アートをテーマにさまざまな体験にチャレンジできるフェスティバル。いろいろな材質の素材を組み合わせてプロの作家のアドバイスを受けながら自分がイメージしたアート作品をつくる「アートDE遊ぼう!」や、創作体験をしながら1泊2日をみんなで過ごす「夏のチャイルドアートキャンプ」など小学生向け体験事業のほか、織り体験教室なども実施する。

富山県あさご芸術の森美術館
Tel. 079-670-4111

総合

●北海道白老町 9月7日～15日 飛生芸術祭2019 「僕らは同じ夢をみる」

木造の廃校舎や周囲の森を舞台に、アートや音楽など幅広い表現を通して、子どもから大人まで楽しめるおとぎ話のような世界観が特徴的な芸術祭。昨年は10周年として準備していたところ北海道胆振東部地震が発生。森の補修作業などを行いながら今年も開催に至った。昨年出演予定だったアーティストらもパフォーマンスや展示を行う。

富山県飛生アートコミュニティ(旧飛生小学校、周囲の森)
富山県飛生アートコミュニティ
contact@tobiu.com

●宮城県石巻市ほか 8月3日～9月29日 リボーンアート・フェスティバル2019

「アート」「音楽」「食」の総合芸術祭。今年は「いのちのてざわり」

をテーマに、7組のキュレーター・40組以上の作家によるアート作品とオープニングライブやオペラなどの多彩な音楽、地元の食材を楽しむことができる。ガイドによる解説を聞きながら、会場となる牡鹿島、網地島をバスで巡るオフィシャルツアーも実施。

富山県牡鹿半島、網地島、石巻市街地、松島湾(石巻市、塩竈市、東松島市、松島町、女川町)

富山県Reborn-Art Festival 実行委員会 info@reborn-art-fes.jp

●茨城県ひたちなか市 8月11日～31日

みなとメディアミュージアム 2019

ローカル鉄道沿線を舞台にしたアートプロジェクト。アートと地域との協働によるまちの活性化を目的として、「産+学+芸(アーティスト)」の三者から成る実行委員会により運営されている。11年目を迎えた今年のテーマは「つながる。もこもこつながる。」。公募アーティストの作品が駅や車輦、まちなかを中心に展示される。
富山県ひたちなか海浜鉄道湊線車輦／駅構内、那珂湊地区商店街
富山県みなとメディアミュージアム事務局 info@minato-media-museum.com

●群馬県中之条町 8月24日～9月23日

中之条ビエンナーレ2019

今年から、ビエンナーレだけでなく中之条町自体への観光案内を充実させるため、鑑賞パスポートとともに「なかのじょう周遊チケット」を配布。期間中は150組に及ぶアーティストの作品が展示されるほか、パフォーマンスやワークショップも開催。オープニングでは作家と地元の子もたちが一緒にその場で作品をつくり上げるイベントも実施される。
富山県中之条町内各所
富山県中之条ビエンナーレ事務局
Tel. 0279-75-3320

●東京都豊島区 7月20日～8月24日

としまアート夏まつり2019

豊島区内複数の会場で、あらゆる世代が気軽にアートとふれあえるプログラムが多数展開される。恒例の“子どもに見せたい舞台”シリーズは「東アジア文化都市2019豊島」の舞台芸術部門スペシャル事業として、韓国の人気短編小説を題材にした作品『青春～ボムボム～』（振付・構成・演出：スズキ拓朗）を公演。日韓のキャストが出演し、映像、ダンスや音楽と盛りだくさんの舞台となっている。

会場あうるすぽっと ほか

会場NPO法人アートネットワーク・ジャパン Tel. 03-5961-5200

●名古屋市、豊田市ほか 8月1日～10月14日

あいちトリエンナーレ2019

3年ごとに開催される国際芸術祭。現代美術展や映像プログラム、パフォーマンスなどのポップスを取り入れた音楽プログラムを実施。来場者が鑑賞する環境を整えるため、「対話型アート鑑賞」のエッセンスを組み込んだガイドボランティアのトレーニングを試みる。

会場愛知芸術文化センターほか

会場あいちトリエンナーレ実行委員会事務局 広報担当
Tel. 052-971-6182

●愛知県豊田市 8月4日～18日
農村舞台アートプロジェクト
2019「アートで蘇るとよたの農村舞台群」

地域の文化財である農村舞台を活かしたアートプロジェクト。10周年の今回は公募アーティストのほか、豊橋市出身のグラフィックデザイナー味岡伸太郎と、いけばな作家の伊藤庭花を招聘。ライブでは小田木人形座

や歌舞伎、津軽三味線などを上演。農村舞台は山間部に位置するものが多いが、アクセスしやすい場所を会場にするなど工夫している。

会場西中山町八柱神社、深見町磯崎神社、藤岡飯野町秋葉神社ほか
会場豊田市文化振興財団

Tel. 0565-31-8804

●兵庫県豊岡市 6月1日～9月30日

Toyooka Art Season 2019
(春夏期)

演劇や音楽、美術、伝統芸能などさまざまなプログラムを開催するアートの祭典。春夏期では、プロの俳優と地元市民が共演する演劇プロジェクト「内藤裕敬と関西の俳優たち×市民演劇『満月』」や、近畿地方に現存する最古の芝居小屋、出石音楽館で実施する子ども歌舞伎ワークショップなど、市民と共につくる作品も多数実施する。

会場豊岡市民会館、豊岡市民プラザ、城崎国際アートセンター、出石音楽館ほか

会場Toyooka Art Season事務局
Tel. 0796-23-1160

●香川県直島町ほか 7月19日～8月25日

瀬戸内国際芸術祭2019(あつまる夏)

瀬戸内海の12の島を舞台に春・夏・秋の会期で開催される現代アートの芸術祭。グローバル化や人口減少で美しい自然や固有の文化が失われつつある島々に活力を取り戻すことを目指す。今回のテーマは「海の復権」。より深く地域を掘り下げることを目的とし、瀬戸内の資源に焦点を当てたアーティストの新作やプロジェクトも行われる。

会場瀬戸内海12の島、高松港・宇野港周辺
会場瀬戸内国際芸術祭実行委員会 Tel. 087-813-2244

ホール・美術館

夏休み子ども企画
カレンダー

ジャンル別に、開催地、日程、事業名、事業内容の順に掲載しています。
会場は会場、会場は問い合わせ先です。
(マ)は地域創造助成事業

音楽・演劇・ダンス

●群馬県太田市 7月7日

バレエとオーケストラで楽しむ
サマーコンサート

太田市を拠点に活動する2つの芸術団体、国内外で活躍するダンサーを多数輩出している山本禮子バレエ団と、市営のおおた芸術学校の講師を中心に構成されたプロオーケストラ「おおたアカデミーオーケストラ」によるコンサート。バレエのストーリーをわかりやすく紹介しながらさまざまな踊りの曲を楽しく紹介する。
会場太田市民会館
会場おおた芸術学校 Tel. 0276-45-9966

●さいたま市 8月4日

テアトロ・ムジーク・インプロ
ヴィーゾ『うつくしいまち』

主に子どもの描く夢やファンタジーを題材に創作する美術作家で、児童劇団を主宰する演出家でもあるイタリアのダリオ・モレッティと音楽家の野村誠、やぶくみこによるユニットが埼玉のまち巡り、地元の子どもたちとのワークショップなどを経て、「うつくしいまち」の物語を音と絵で紡ぎ出す。2017年に兵庫県豊岡市で初演。

会場彩の国さいたま芸術劇場

会場埼玉県芸術文化振興財団
Tel. 048-858-5500

●東京都台東区 8月4日

夏休み子ども音楽会2019
《上野の森文化探検》

家族でオーケストラを楽しむ恒

例の夏休みコンサート。演奏は東京都交響楽団。同日にバックステージツアーも実施されるほか、ポルトガルの音楽施設「カーザ・ダ・ムジカ」と連携して実施している「ミュージック・ワークショップ」も開催。音楽会のチケットで動物園や美術館、博物館など上野公園周辺の文化施設を1日中楽しめる特典付き。

会場東京文化会館

Tel. 03-3828-2111

●東京都三鷹市 8月25日

ファミリーコンサートin光のホール
「赤ちゃんからのクラシック」

幼い頃から音楽の魅力にふれてほしいという願いを込めた親子のためのコンサート。クラシックの名曲からパーカッションの現代曲、三鷹にちなんだゆかりの作曲家の童謡、ジブリ映画音楽など幅広い音楽にふれることができる。さらに今年は、身近な音から生まれる音楽を体感するワークショップが公演前に行われる。

会場三鷹市公会堂光のホール

会場三鷹市スポーツと文化財団
Tel. 0422-47-5122

●東京都国立市 7月23日、24日
くにたち芸小こども寄席 その9

小学生を対象とした夏休み恒例の落語入門講座。講師は「くにたちすたじお寄席」にも出演していた立川らく次(真打)と立川志ら門。落語の基本的な決まり事のレクチャーを受けてから、落語家自らが編さんしたテキストから選んだ好きな落語や小噺に稽古をつけてもらう。

会場くにたち市民芸術小ホール
Tel. 042-574-1515

●浜松市 8月18日

ジュニアオーケストラ・フェスティ
バル2019 in Hamamatsu

2001年から3年に1度開催され

ているジュニアオーケストラの祭典。浜松では04年以来2度目の開催。全国公立ジュニアオーケストラ連絡協議会に加盟する8団体が参加。練習や交流会を通して交流を深め、メインコンサートでは、20分ずつの単独演奏に加え、選抜メンバーによる合同オーケストラがフィナーレを飾る。

☑ アクトシティ浜松
☑ 浜松市文化振興財団
Tel. 053-451-1151

●愛知県豊田市 8月25日
夏休み親子で楽しむ「わくわく能楽体験」

敷居が高いと思われがちな能・狂言を気軽に楽しんでもらうために開催している夏休み恒例のプログラム。普段は上がれない能舞台の上を歩いたり、さまざまな能の楽器を体験できる。プロの能楽師による解説付きの能・狂言公演もあり、保護者も一緒に楽しめる内容となっている。

☑ 豊田市コンサートホール・能楽堂 Tel. 0565-35-8200

●兵庫県伊丹市 7月24日～28日
こどものための夏休みワークショップ『みんなでつくるおねだりダンス～ギブミー!ギブミー!!ギブミー!!!～』

普段ホールに足を運ぶ機会の少ない小学生に演劇やダンスで表現する楽しさを体感してもらう恒例のワークショップ。講師は砂連尾理(ダンサー・振付家)と林慎一郎(劇作家・演出家)。今年は古今東西の名作戯曲から“お願い”にまつわるシーンを引用したオリジナル作品を創作し、最終日に成果を披露する。

☑ 伊丹市立演劇ホール Tel. 072-782-2000

●兵庫県宝塚市 7月29日
あけてびっくり! ピアノのひみつ

コンサートホールで奏でられる

楽器の響きを感じてもらったり、楽器の仕組みを学べるなど、夏休みの自由研究のヒントになるような体験を提供するプログラム。今年はピアニストや調律師によるピアノの仕組みを解説するワークショップ、ドビュッシーやモーツァルトの名曲を奏でるミニコンサートを開催。

☑ 宝塚ベガ・ホール
☑ 宝塚市文化財団
Tel. 0797-85-8844

●福岡県宗像市 7月21日
ジャジャジャジャーで始まる! わくわく・ドキドキ♡オーケストラ体験!! —Jupiter—

10月に開催される「宗像ミアレ音楽祭」に先立って夏休みに開催している九州交響楽団のファミリー向けコンサート。工夫を凝らしたプログラムや指揮者体験などで、クラシック音楽をより身近に親しむことができる。当日は観客の案内やプログラムの配布、開演前のアナウンスなどをするキッズスタッフがお客様をお出迎え。

☑ 宗像ユリックス
Tel. 0940-37-1483

●宮崎県日向市 7月20日、21日
第11回ひむかの国こども落語全国大会

天照大御神が隠れた天の岩戸を“面白いこと”をして開かせた神話から、“お笑い発祥の地”とされる宮崎(ひむかの国)で毎年開催している落語コンテスト。小学生の部、中・高校生の部に分かれ話芸を競い、桂歌春らの審査でそれぞれ最優秀賞などを決定。決勝大会後は審査員を務めたプロ落語家によるファミリー寄席も開催。

☑ 日向市文化交流センター
☑ お笑い発祥の地 落語が地球を救うかもしれない実行委員会
Tel. 0982-54-6111

美術
●東京都大田区 8月17日
あそびのゲイジツ・アニメーションの世界

アニメーションをみて、つくって、あそぶ1日限りの短編アニメーション上映会。アニメならではの不思議な非日常世界や、命について考える物語などテーマを分けた4つのプログラムを紹介するほか、粘土のキャラクターをつくって動かすコマ撮りアニメのワークショップも同時開催。アニメの多彩な芸術性や仕組みを学べる。

☑ 大田区民ホール・アブリコ
☑ 大田区文化振興協会
Tel. 03-3750-1611

●神奈川県平塚市 7月23日、30日、8月6日、20日(予定)
絵を見て発見! 夏のおしゃべり美術館

普段は市内小学校と実施している1980年代にニューヨーク近代美術館で開発された「対話による美術鑑賞」を夏休みバージョンとして開催。本物の作品を前に、思ったことや感じたことを鑑賞ボランティアチームのサポートで言葉にしてみる。

☑ 平塚市美術館
Tel. 0463-35-2111

●兵庫県芦屋市 7月13日～9月23日
コレクション展「こどもとおとな—これ、なににみえる?」

所蔵する絵画や彫刻などから、ちょっと変わった技法や素材でつくられた作品、身近なモチーフから想像で描いたものまで独創的に表現した作品などを親しみやすい解説で紹介。作品から何を感じたか、子どもも大人も思ったことを伝え合えるよう、鑑賞後の意見交換ができる感想コーナーを設ける。

☑ 芦屋市立美術館
Tel. 0797-38-5432

●熊本県宇城市 7月17日～8月25日
開館20周年記念 動物画家 数内正幸絵本原画展

開館以来毎年夏休みに開催している絵本原画展。今回は動物画家として幅広く活躍した数内正幸(1940～2000)を紹介。長きにわたり読み継がれている『どうぶつのおやこ』『冒険者たち』をはじめとする絵本・児童書の原画作品に加え、図鑑に描かれた動物画など約80点を展示。

☑ 宇城市不知火美術館
Tel. 0964-32-6222

総合
●東京都多摩市 7月20日～9月1日
パルテノン多摩 夏休みキッズ★プログラム

新しい芸術に出会う場として、「おやこ寄席」や楽器の魅力を伝えるミニコンサート、能に挑戦するワークショップなど、幅広いジャンルのイベントが開催される。子どもと大人が一緒に参加できる事業が多くあり、同じ体験を共有することや、そこから生まれる家族のコミュニケーションを大切にしている。

☑ パルテノン多摩 ☑ 多摩市文化振興財団 Tel. 042-375-1414

●横浜市 7月20日
さくらプラザオーブンデー2019 「真夏のこども探検隊～おいでよ、おんぶの街～」

夏休みの1日、全館を開放し、ミニコンサートやワークショップなどの企画を中心にさまざまなイベントを開催。今回は、シンガーソングライター ROCOがライフワークとしている童謡をジャズにアレンジした「こどもじゃず」のコンサートをはじめ、音楽にちなんだ企画が館内各所で行われる。

☑ 戸塚区民文化センターさくらプラザ Tel. 045-866-2501

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示しているのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北] 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東] 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部] 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿] 三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国] 鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄] 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4183
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 児島・三田

●2019年9月号情報締切

8月1日(木)

●2019年9月号掲載対象情報

2019年9月～11月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」 掲載情報募集中

当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。

◎公共ホール等の求人情報

◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報

掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.jafra.or.jp/>

北海道・東北

●山形県酒田市

酒田市文化芸術推進プロジェクト会議

〒998-8540 酒田市本町2-2-45 (酒田市教育委員会内)

Tel. 0234-24-2982 小松千佳

<http://www.kibou-hall.sakata.yamagata.jp/festival/>

酒田希望音楽祭2019 音楽のまちプロジェクト 市原多朗マスターコース

音楽によるまちづくりをすすめる酒田市が2005年から毎年開催している音楽祭。今年も、名誉市民であり世界で活躍するオペラ歌手、市原多朗による公開レッスンや、ヴィタリ・ユシュマノフ(バリトン)ら若手声楽家のオペラコンサート、トークイベントなど本格オペラ企画が並ぶ。次世代への継続的な運営を目指し、クラウドファンディングにも取り組んでいる。

[日程] 7月26日、27日

[会場] 酒田市民会館「希望ホール」

関東

●栃木県宇都宮市

宇都宮市民芸術祭実行委員会

〒320-8570 宇都宮市明保野町7-66 (宇都宮市文化会館内)

Tel. 028-636-2121 坂本哲也

<http://uacf.jp/>

宇都宮市民芸術祭40周年記念事業 歌劇『歌法師 蓮生』

宇都宮城第5代城主であり、歌人でもあった宇都宮頼綱(蓮生法師)の半生を通し、百人一首の世界をオペラ・合唱・演劇・吟詠剣詩舞・邦楽・オーケストラで描く。市民芸術祭40周年である今回は、20周年記念で制作したオリジナル作品をリニューアルして上演。出演者、スタッフは全員宇都宮市在住、出身者で構成される。

[日程] 7月7日

[会場] 宇都宮市文化会館

●千葉県流山市

流山市文化会館(中央公民館)

〒270-0176 流山市加1-16-2

Tel. 04-7158-3462 Fax. 04-7158-3442

川村健司

バリアフリー演劇鑑賞会

<https://www.city.nagareyama.chiba.jp/event/1014847/1015975.html>

障害者差別解消法の施行をきっかけに企画されたバリアフリーイベント。千葉県高校演劇第一地区の協力により実施され、今回は千葉県立流山高校演劇部が出演。同校部員が脚本執筆したコメディ劇『ベストアンサー〜強盗のすゝめ』を上演する。耳の不自由な方への字幕表示や目の不自由な方への音声ガイドなど、障がいの有無に関係なく楽しめるように高校生が鑑賞サポートを行う。

[日程] 7月20日

[会場] 流山市文化会館(ホール)



鑑賞サポートの様子(目の不自由な方にイヤホン付きラジオを貸し出し)

●川崎市

川崎市市民ミュージアム

〒211-0052 川崎市中原区等々力1-2

Tel. 044-754-4500 定森・古家

<http://www.kawasaki-museum.jp/>

妖怪／ヒト ファンタジーからリアルへ

近世から近代にかけて人々が抱いた恐怖や畏怖の対象が、妖怪から人間になっていく様子を、「妖怪」と「ヒト」の境界線に注目し、鳥山石燕『画図百鬼夜行』をはじめとする、同館所蔵の妖怪関連資料と明治の

戦争錦絵約100点からたどる。怪談作家・木原浩勝所蔵の妖怪『件(くだん)』のミイラも特別出品する。

[日程] 7月6日～9月23日

[会場] 川崎市市民ミュージアム

●神奈川県茅ヶ崎市

茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団

〒253-0053 茅ヶ崎市東海岸北1-4-45

Tel. 0467-88-1177 藤川悠

<http://www.chigasaki-museum.jp/>

美術館まで(から)つづく道

多様な人々をプロセスの当初から巻き込むインクルーシブデザインの手法で、表現者と障がい者や小さな子どもが共に茅ヶ崎の道を歩くフィールドワークを行い、その気づきから4組の表現者が新作を展開するプロジェクト。障がいの有無でなく誰もが異なる感覚をもつ「感覚特性者」とであるという観点から、視覚・聴覚・触覚・嗅覚を用いて鑑賞するメディアアートやフレグランスなどの作品が並ぶ。

[日程] 7月14日～9月1日

[会場] 茅ヶ崎市美術館

北陸・中部

●岐阜県多治見市

パロー文化ホール

〒507-0039 多治見市十九田町2-8

Tel. 0572-23-2600 三宅朝子

<http://www.tajimi-bunka.or.jp/bunka/>

まるごと一日音楽の日inたじみ2019

いろいろなジャンル、いろいろな形で音楽を楽しむ日。メインコンサートは半年間練習を重ねてきた市民合唱団と市民オーケストラの総力を結集し、フィナーレを彩る。キッズコンサートやレコード鑑賞会、楽器体験&デモンストレーションなど、多世代で楽しめるプログラムがあり、今年は名古屋音楽大学と連携したプ

プログラムも組まれている。

[日程]6月30日

[会場]パロー文化ホール(多治見市文化会館)



たじみオーケストラ合唱団

中国・四国

●広島市

広島市現代美術館

〒732-0815 広島市南区比治山公園1-1

Tel. 082-264-1121 竹口浩司

<https://www.hiroshima-moca.jp/>

山口啓介 後ろむきに前に歩く

兵庫県出身の美術家・山口啓介の3年ぶりの回顧展。方舟を描いた銅版画で一躍注目を浴びた山口は、花や種子、人体をモチーフにした絵画などさまざまな作品を手掛けてきた。今回の展覧会は新作の大型絵画3点や、2011年の東日本大震災を契機に毎日書き続けている《震災後ノート》を含む120点で構成され、山口のこれまでとこれからを伝える。

[日程]6月8日～9月4日

[会場]広島市現代美術館

九州・沖縄

●福岡市

福岡市文化芸術振興財団

〒812-0027 福岡市博多区下

川端町3-1 リバレインセンタービル8F

Tel. 092-263-6265 上村育実

<http://www.ffac.or.jp/>

魅せる!聴かせる!人形浄瑠璃への誘い

福岡発祥の筑前琵琶の弾語りで国内唯一の琵琶浄瑠璃人形芝居を上演してきた筑前艶恋座による公演で、4年ぶりの新作となる『安珍清姫』の物語が見どころ。人形浄瑠璃初心者も楽しめるよう、「人形浄瑠璃のおはなし」のコーナーを設ける。

[日程]7月13日

[会場]福岡市科学館

●宮崎県延岡市

「童謡100年」記念プロジェクト・のべおか実行委員会

〒882-0852 延岡市東浜砂町611-2(延岡総合文化センター内)

Tel. 0982-21-0550 末藤俊二

<https://nobeoka-bunka.com/category/event/owner/>

「童謡100年」記念 ジョイントコンサート

童謡文化誕生100年を記念するコンサート。作曲家、音楽教育家、歌唱指導者として活躍する海沼実と、同氏の祖父である童謡作曲家・海沼實によって創設された伝統ある児童合唱団「音羽ゆりかご会」が出演。コンサート後半では地元の合唱団も出演し、最後は来場者も参加して全員で童謡を歌う。

[日程]7月28日

[会場]延岡総合文化センター

Topics

1コイン・コンサート100回達成のりゅーとぴあ 特別プログラム「5台ピアノの世界」

りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館が2002年にスタートし、年6回ペースで開催してきた「1コイン・コンサート」が、5月11日の記念イベント「ピアノ駅伝」で100回を達成しました。平日昼間の1時間、500円(1コイン、チケットレス)の低料金で質の高いコンサートがトークを交えて楽しめるこのヒット企画は、主婦層や高齢者層など従来のクラシックファンとは異なる層を開拓し、平均約800人の観客を集めてきました。地域創造の「地域の公立文化施設実態調査(2013年度実績)」「(今年度最新調査を実施予定。ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします)」によると、都道府県立ホールの3割近くが実施するなど、全国に広がっています。

1998年に開館したりゅーとぴあは、ジュニアの育成や充実した鑑賞事業、コンテンポラリーダンスのレジデンス・カンパニー、アウトリーチなど、長年にわたり全国の公立文化施設のモデルとなってきました(平成17年度地域創造大賞受賞)。地域創造も今年で創立25周年になりますが、この間、文化による地域づくりに尽力してきた多くの公立文化施設と手を携えてきました。りゅーとぴあもそのひとつで、音楽事業には多くのおんかつ登録アーティストやOBアーティストが

関わっています。今回の「ピアノ駅伝」にも、白石光隆、田村緑、中川賢一、デュエットウかなえ&ゆかりというお馴染みのおんかつメンバーが出演。文字どおりタスキを渡しながら1日で4つの1コイン・コンサートが行われました。

特筆すべきは、その全員が出演し、翌日行われた特別プログラム「5台ピアノの世界」です。新潟市は1977年から武道場を改修した音楽文化会館でジュニアオーケストラを育成するなど、音楽文化を育んできました。こうした流れで計画されたりゅーとぴあには、全国でも珍しく、最大サイズのフル・コンサートのハウス・ピアノが5台(カワイ、スタインウェイ2台、ベーゼンドルファー、ヤマハ)揃っています。今回の企画は、それをすべてステージに並べ、音色の違いを楽しむ、有名なオーケストラ曲を今までにないハーモニーで披露するというもので、チケットは早々に完売。期待が膨らむ中、5台による『結婚行進曲』、2台8手による『アラ・ホーンパイプ』、女性ピアニストだけの3台による『亡き王女のためのパヴァーヌ』、まるで星が煌めく宇宙に連れ出されたかのような5台による『木星』、ラストを飾った『展覧会の絵』全曲演奏など、ピアノが共鳴し、ホール空間

が複雑に響き、異次元にトリップし、1,200弦10手が森羅万象を奏で、時に肉感的な音体験にわくわくする演奏が続きました。

1コインの発案者で、今回の企画も担当した中尾友彰さんは、「開館当初からの念願企画でした。駒井一輝さんに編曲をお願いし、ピアニストは3月からホール合宿やチーム合宿、演奏会前の12時間リハーサル、ピアノの置き方の実験などの準備を重ね、2台、3台、5台でひとつのハーモニーをつくる努力をしてきました。気心の知れた演奏家同士だからできたことだと思います。ピアノとオーケストラ曲の新たな魅力を伝える試みとしてこれからも続けたいし、市民合唱団もあるので、いつか『カルミナ・ブラーナ』を5台ピアノでやれば」と夢を膨らませていました。



特別プログラム「5台ピアノの世界」 写真提供:りゅーとぴあ

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

●「地域創造フェスティバル2019」
 [日程] 7月30日(火)、31日(水)
 [会場] 東京芸術劇場(東京都豊島区西池袋1-8-1) ※入場無料
 ◎申し込み方法
 当財団ウェブサイトにある「参加申込フォーム」からお申し込みください。また、申込書による受付を希望の場合はメールでお問い合わせください。
<http://www.jafra.or.jp/j/guide/independent/tradition05/index.php>
festival@jafra.or.jp
 ◎問い合わせ
 芸術環境部 青井・渡辺・菅・山本
 Tel. 03-5573-4093

●「地域創造フェスティバル2019」参加者募集

公共ホール音楽活性化支援事業(おんかつ)や公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)、助成事業、調査研究事業など地域創造が取り組んでいるさまざまな事業を紹介し、地方公共団体や公共ホールが文化芸術に関する事業を企画・実施する上で参考になる情報を提供することを目的に開催するものです。

会場では、地域社会とこれからの公立文化施設のあり方に関連するシンポジウムや、地域創造の登録アーティストによる音楽・ダンスの生のプレゼンテーションをご覧いただけるほか、助成事業の説明会などを行います。また、各日ともに情報交換会を設けており、地域創造登録アーティストや他の公共ホール等とのネットワークづくりの場としても活用が可能です。

※地域創造フェスティバルは事前申し込み制です。お申し込み方法については左記要領をご覧ください。 **募集締切: 7月22日(月)必着**

地域創造フェスティバルの主なみどころ

◎シンポジウム

「2021年以降の地域社会とこれからの公立文化施設—少子高齢化、福祉と向き合う劇場・ホールの事例から」をテーマに、三重県文化会館「『介護を楽しむ』『明るく老いる』アートプロジェクト」と、北九州芸術劇場が北九州市身体障害

者福祉協会と協働し実施している「レインボードロップス・ダンスプロジェクト」の2つの事例からゲストをお招きします。年齢や障がいの有無を問わず、それぞれの個性を活かした演劇やダンスの表現活動・プロジェクトを進めてきたゲストと“これからの公立文化施設のあり方”についてディスカッションを通じて考えていきます。

◎おんかつ支援プレゼンテーション

53組のおんかつ支援登録アーティストたちが、音楽との新しい出会いを地域へ届けるため工夫を凝らした演奏とトークを、1組30分の持ち時間の中で披露します。「おんかつ」に関心のある方はどなたでも鑑賞いただけます。

◎おんかつセミナー

「普及事業としてのアウトリーチ ～継続から普及へ 持続可能な事業づくり～」をテーマに、特色ある事業に取り組み、長く継続している公共ホールの担当者の方にお集まりいただき、どのような工夫をして、どのような成果があるのか、またこの先どのような未来を目指しているのかなどについてお話しします。

◎ダン活プレゼンテーション

令和2年度ダン活登録アーティスト8組が25分の持ち時間でダンスパフォーマンスとワークショップのデモンストレーションを行います。ワークショップに実際に参加することもでき、コンテンポラリーダンスの魅力を生で体験することができます。

「地域創造フェスティバル2019」プログラム

*詳しいプログラム内容やタイムスケジュールは同封チラシをご覧ください。
 *プレゼンテーション出演アーティストは変更になる場合がございます。

7月30日(火)	7月31日(水)
●シンポジウム「2021年以降の地域社会とこれからの公立文化施設—少子高齢化、福祉と向き合う劇場・ホールの事例から」 [モデレーター] 吉本光宏 [パネリスト] 菅原直樹、セレノグラフィカ(隅地菜歩・阿比留修一)、松浦茂之、龍亜希	●おんかつセミナー「普及事業としてのアウトリーチ ～継続から普及へ 持続可能な事業づくり～」 [モデレーター] 小澤櫻作 [パネリスト] 井尾祥子、中尾友彰、田澤拓朗 [コメンテーター] 児玉真、丹羽徹
●ダン活プレゼンテーション [アーティスト] 長井江里奈、北尾亘、マニシア、中村春、白井剛、藤田善宏、康本雅子、田村一行	●地域創造助成要綱説明会
	●公立美術館活性化事業説明会
	●リージョナルシアター事業説明会
●おんかつ支援プレゼンテーション [ピアノ] 新崎誠実、岩崎洵奈、酒井有彩、田村緑、中川賢一 [弦楽器] 磯給里子、北島佳奈、早稲田桜子(ヴァイオリン)/奥田なな子、加藤文枝(チェロ) [管楽器] 田中拓也(サクソフォン)/加藤直明(トロンボーン) [声楽] 菅家奈津子(メゾソプラノ)/糸賀修平(テノール)/吉川健一(バリトン) [打楽器] 大熊理津子、宮本妥子(マリンバ)/野尻小矢佳(パーカッション&ボイス) [その他] 松尾俊介(クラシック・ギター)/福島青衣子(ハーブ) [アンサンブル] デュエットウカナエ&ゆかり、ピアノデュオ・ドゥオール(ピアノデュオ)/デュオ・レゾネ(クラリネット&ピアノ)/ピアノトリオ・ミューゼ/Quartet SPIRITUS(サクソフォン四重奏)/BLACK BOTTOM BRASS BAND	●おんかつ支援プレゼンテーション [ピアノ] 新居由佳梨、久保田葉子、今野尚美、佐々木京子、白石光隆、中野翔太 [弦楽器] 大森潤子、坂口昌優、高橋和歌(ヴァイオリン)/海野幹雄(チェロ) [管楽器] 森岡有裕子、吉岡次郎(フルート)/大石将紀、田村真寛(サクソフォン)/高見信行(トランペット)/喜名雅(チューバ) [声楽] 大森智子、廣田美穂(ソプラノ)/ヴィタリ・ユシュマノフ(バリトン) [打楽器] 塚越慎子、浜まゆみ(マリンバ) [その他] 山本奈央(オカリナ) [アンサンブル] 泉真由×松田弦(フルート&クラシック・ギター)/Dual KOTO×KOTO(箏デュオ)/アーバンサクソフォンカルテット、Quatuor B(サクソフォン四重奏)/Buzz Five(金管五重奏)

財団からのお知らせ

令和元年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」へのご応募をお待ちしています!

●趣旨

地域創造大賞(総務大臣賞)は、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰し、全国に広く周知することにより、公立文化施設のさらなる活性化を図り、美しく心豊かな地域づくりの推進に寄与することを目的としています。

●表彰対象(審査の主なポイント)

- 開館からおおむね5年を経過している(廃校施設等の転用施設を含む)
- 地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績を挙げている(例えば、先進性、テーマ性を有する自主企画作品の制作、公演や自主企画展覧会の開催等創造的な活動に取り組むとともに、内外の優れた作品の鑑賞機会の提供に意欲的に取り組んでいる)
- 条例により公の施設として設置および管理されている

*今般、実施要領において、表彰の対象となる公立文化施設の主な活動を次の①～⑤のとおりに明記しました。

- ①音楽分野
- ②演劇・ダンス分野
- ③伝統芸能分野
- ④美術分野
- ⑤その他(文化・芸術の新機軸となり得る創意工夫を凝らした文学、歴史などで①～④の分野と連携しながら継続的に事業を展開していると認められるもの)

●これまでの受賞施設等

平成16年度から30年度までの15年間で、116施設が地域創造大賞に輝きました。受賞施設は、いずれも公立文化施設の運営を通じて地域に活力をもたらした素晴らしい施設ばかりです。また、設置主体は、いわゆる小規模町村から政令指定都市・都道府県まで、

広範にわたっています。例えば、「坂本善三美術館(平成27年度受賞・熊本県小国町)」は子どもたち・住民・アーティストの交流を意欲的に行うなど、地域コミュニティの絆を育む場としての長年にわたる尽力が高い評価を受けましたし、「徳島県立阿波十郎兵衛屋敷(平成30年度受賞・徳島県)」は、阿波人形浄瑠璃の普及事業に力を入れるほか、地域に残る農村舞台との連携を図り、観光資源として新たなアイデアによる事業を展開するなど、伝統芸能の継承・発展の新たなあり方を提示したことが高い評価を受けました。

これまでの受賞施設につきましては、当財団のウェブサイト(<http://www.jafra.or.jp/j/guide/independent/award01/index.php>)で紹介していますので、こちらもぜひご覧ください。

●実施要領・応募書

当財団のウェブサイト「様式箱」→「地域創造大賞(総務大臣賞)」からダウンロードできます。

<http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/>

●応募方法(応募書の提出先)

都道府県・政令指定都市は、当財団に直接応募書を提出してください。また市区町村は、当財団のウェブサイトに掲載した都道府県の担当課を経由して、応募書を提出してください。

募集締切:7月22日(月)



平成30年度地域創造大賞(総務大臣賞)表彰式
(2019年1月18日)

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●令和元・2年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」長野セッションセミナー参加者募集

都道府県と連携し、地域での演奏活動を通じて創造性豊かな地域づくりに資することを目的とした本事業は、令和元・2年度に長野県で実施します。今年度は「なぜ今アウトリーチか～子どもが輝くアートのちから～」と題したアウトリーチ・セミナーを開催します。

演出家の田上豊さんによるワークショップと鹿児島セッションのアーティスト「トリオ・リラ」

の模擬アウトリーチを通して、アウトリーチの“今”を体感し、学校での実施を経験したアーティストの生の声を交えながら、アウトリーチにおける芸術の可能性や、未来が求めるものに対して担える役割を考えます。

長野県内でアウトリーチ事業などに関心のある公共ホールや、文化行政ご担当者等の参加を募集しますので、キッセイ文化ホール宛にお申し込みください。

※定員に達し次第締め切り

募集締切：7月20日(土)

●令和2年度「リージョナルシアター事業」参加団体募集

演出家や俳優(以下、派遣アーティスト)を公共ホールに最大3回派遣し、公共ホールとともに演劇の手法を使ったワークショップを企画・実施する「リージョナルシアター事業」の参加団体を募集します。

この事業では、主に学校等の施設を訪れて子どもたち等を対象にワークショップを行うアウトリーチや、ホール等で多様な参加者に応じたワークショップを実施します。地域のニーズやホールの目指す方向性に合わせてプログラムを自由に企画することができ、演劇の表現者と共にワークショップを行うことで、地域の課題に取り組むことが可能になります。また、公共ホール等の企画・制作能力の向上、ホールの活性化も期待できます。

これまでの事業では、小中学校の授業内でのアウトリーチや、市民を対象に表現することの楽しさを体験したり、地域の魅力を演劇の手法で再発見する公募型ワークショップ、行政職員や教員の研修として行うワークショップなど、多岐にわたるプログラムを実施しています。

各地域での事業実施前には、参加団体と派遣アーティストが一堂に会する研修会を実施します。過去の事例紹介やワークショップ体験、事業実施に向けた打ち合わせを行いながら、各地域の課題や展望を共有していきます。

演劇の手法を使った新しい取り組みへの挑戦や、派遣アーティストの新しい視点を活用したいというホールの皆様のご応募をお待ちしています。詳細は当財団ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.jafra.or.jp/j/guide/independent/play05/index.php>

募集締切：8月26日(月) 必着



有門正太郎さんによる小学校でのアウトリーチ(埼玉県秩父市)

●令和元・2年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」長野セッション セミナー

[日時] 2019年7月24日(水)

[会場] キッセイ文化ホール(長野県松本文化会館)

[参加申し込み方法] ①氏名②所属・職名③住所④電話番号⑤メールアドレスを記入の上、メールまたはファックスにてお申し込みください。

Email: jigyo@matsubun.jp

Fax: 0263-34-7101

[定員] 30名

●「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」に関する問い合わせ

芸術環境部 渡辺

Tel. 03-5573-4185

●令和2年度「リージョナルシアター事業」◎派遣アーティスト

多田淳之介(演出家、東京デスロック主宰)

田上豊(劇作家・演出家、田上バル主宰)

有門正太郎(演出家・俳優、有門正太郎プレゼンツ主宰)

福田修志(劇作家・演出家、F's Company 代表)

ごまのはえ(劇作家・演出家・俳優、ニットキャップシアター代表)

◎問い合わせ

芸術環境部 藤原・山本・勝田

Tel. 03-5573-4124

※実施要綱・申込書は、当財団ウェブサイト内の「様式箱」→「リージョナルシアター事業」からダウンロードできます。

<http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/>

●平成30年度事業報告書 ウェブサイト公開のお知らせ

平成30年度各事業報告書をウェブサイトで公開しています(PDF版を閲覧・ダウンロード可能です)。

「出版物・報告書」→「事業報告書」

http://www.jafra.or.jp/j/library/business_report/

地域創造が運営しているウェブサイトは、地域の文化・芸術に関する情報をより広く提供することを目的に、当財

団の概要・事業紹介のほか、地域創造レターや雑誌「地域創造」、調査研究報告書を掲載し、地域の最新の動向・活動等をお伝えしています。また各事業の申請書や様式をダウンロードすることができます。

地域における文化・芸術活動の情報収集、公立文化施設の活性化や芸術環境づくりにぜひご活用ください。

財団からのお知らせ

●「公立美術館活性化事業」に関する問い合わせ

総務部 高野
Tel. 03-5573-4143

●各事業の詳細については、実施要綱をご確認ください。各実施要綱および申請書類は、当財団のウェブサイト「様式箱」→「公立美術館活性化事業」各事業からダウンロードできます。
<http://www.jafra.or.jp/ji/guide/box/>

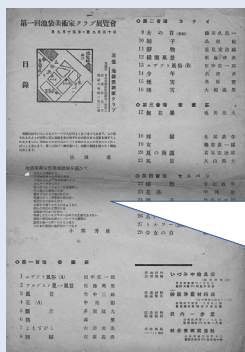
◎[I]「市町村立美術館活性化事業」参加申し込み方法

参加を希望する市町村立美術館が、直接地域創造に申し込みます(各美術館の設置者である地方公共団体の長の副申が必要)。なお、参加決定後に共同巡回展実行委員会を設立していただきます。また、事業の参加に当たっては、準備年度に開催される実行委員会・学芸担当学会議への出席にかかる経費等についての予算措置が必要です。

◎党派を超えた画家たちがざらり! 池袋美術家クラブの展覧会

池袋モンパルナスに暮らす画家たちは「池袋美術家クラブ」を結成し、池袋駅前の喫茶店などを使って展覧会を開きました。田中佐一郎、吉原義彦、難波田龍起など、さまざまな団体に所属した画家たちの作品が一堂に集まりました。ここには小熊秀雄に加え、池袋在住の美術評論家、佐波甫も言葉を寄せています。

第一回池袋美術家クラブ展覧会目録
1936年9月 板橋区立美術館所蔵



小熊秀雄
「池袋美術家倶(※)楽部結成を祝ひて」

われらの先祖から
人間は集まって生きてきた
今更ひとりぼつちでは滅亡する
おしやべりをしたり
集つまつたりすることは意義深し
色と線との画家の生活
戀をするにも下塗が肝心だ
實繪はすべて野獸派は廢め給へ
強烈な色や珍妙な形で
民衆を吃驚させるのはよくない
繪かき同志の友情(※)だけは
印象派ではあつけない
理解して引いたデッサンのやうに正確でありたい
藝術の殖民地池袋モンパルナスの畫家は
黨派を越へて斯くのごとく集る
これまた畫家の進(※)歩性の一つなり

※本文は旧字表記

●令和2・3年度「公立美術館活性化事業」募集

公立美術館活性化事業における4事業5種類のプログラムについて、令和2・3年度に実施される事業の参加館を募集します。

募集締切：令和元年11月29日(金)

[I] 令和2年度準備・3年度開催「市町村立美術館活性化事業」

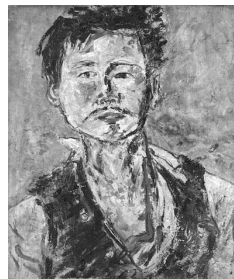
この事業は、地域創造が提示する、公立美術館の所蔵品を活用した共同巡回展を、市区町村の設置する美術館が共同で実施するものです。今回、令和3年度開催の共同巡回展として、「板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナスの仲間たち—全国から集まった画家たちの交差点—」展(仮称)の参加館を募集します。板橋区立美術館、豊島区から池袋モンパルナス関連の絵画、彫刻、デッサンをお借りできるほか、地図や資料、アトリエ映像などもございます。

池袋モンパルナスとは、1920年代より池袋駅周辺に作られた芸術家向けのアトリエ付き住宅が立ち並び、そこに各地から上京した画家たちが集う様子をパリの芸術家の街になぞらえて呼んだものです。北海道から上京した詩人の小熊秀雄もこの地に暮らし、画家たちとの交友の中で「池袋モンパルナス」と題した詩

を作りました。

広い板張りのアトリエに狭いものでは四畳半程度の居住スペースのついた住宅長屋は家賃が安かったこともあり、画学生や上京したばかりの画家に大人気でした。麻生三郎、寺田政明、吉井忠をはじめ、この時代を象徴する作品を生み出した画家たちが暮らしたのも特徴です。彼らと同じように、当時流行していたフォービズムやシュルレアリスム絵画を試みる画家たちもいました。一方で、この界限には官展で活躍する画家たちも暮らしていました。彼らは小熊の詩(下記参照)のように、党派を超えて集まっていたのです。戦争により、アトリエ村の一部は被害を受けますが、戦後もまた山下菊二や高山良策といった次世代の画家たちが集まりました。

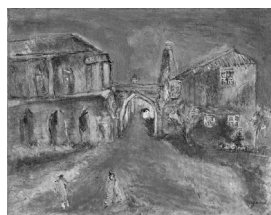
池袋モンパルナスには全国各地から上京してきた画家たちが暮らしていたことが大きな特徴として挙げられます。彼らの中には戦後も池袋や沿線に転居し、東京で制作を続けた者もいれば、故郷に帰り活躍した者もいます。さまざまな地域出身の画家が多く集まっていたからこそ、まだ知られていない池袋モンパルナスに関連する作家もいると考えられます。そうした新たな発見へも繋げていくことのできる可能性を秘めており、また、それぞれの地域の視点から、ゆかりの画家と関連づけて展示す



長谷川利行《鏡光像》1928年
個人蔵(板橋区立美術館寄託)



寺田政明《牙》1938年
板橋区立美術館所蔵



小熊秀雄《夕陽の立教大学》1935年 豊島区所蔵

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

ることも可能な企画内容となっています(*)。

この事業では、参加館による実行委員会を結成し、令和3年度に巡回展を開催するほか、準備年度事業として、令和2年度から学芸担当者会議等を行い、アドバイザーの助言のもと、企画の具体化や調査研究、制作実務を分担して進めます。地域創造は、準備年度・開催年度の2か年にわたる助成に加え、アドバイザーの派遣や制作実務に対する助言等により、事業の実施をサポートします。

【Ⅱ-①】令和2年度準備・3年度開催「公立美術館共同巡回展開催助成事業(2か年プログラム)」

【Ⅱ-②】令和2年度開催「公立美術館共同巡回展開催助成事業(単年度プログラム)」

3館以上の公立美術館が共同で自主的に企画する、公立美術館の所蔵品を活用した共同巡回展に対し助成します。

「2か年プログラム」は、令和2年度に企画の具体化や調査研究、出品交渉やカタログ編集等の準備作業を行い、令和3年度に巡回展を開催する事業を対象とし、準備年度150万円、開催年度2,000万円を上限に助成します(なお、開催年度助成金については、決定額の50%までの前金払い請求が可能です)。

「単年度プログラム」は、令和2年度に開催される共同巡回展について、A.作品借用・展示

関連経費への助成と、B.図録作成経費への助成のどちらかをご選択いただき、A.については500万円、B.については300万円を上限に助成します。

【Ⅲ】令和2年度実施「公立美術館共同巡回展企画支援事業」

2館以上の公立美術館による「公立美術館共同巡回展開催助成事業」の申請に向けた、企画内容の検討や調査研究等の取り組みを支援します。地域創造は学芸担当者会議の開催や調査活動のための経費に対し、100万円を上限に助成するほか、アドバイザーの派遣、会議室の提供、他の参加館募集の告知等による支援も行います。

【Ⅳ】令和2年度実施「公立美術館共同地域交流プログラム助成事業」

2館以上の公立美術館が共同で企画する、公立美術館の所蔵品を活用した地域交流プログラムの実施に対し、100万円を上限に助成します。参加館や他の公立美術館のコレクションを活用した展覧会(異なる展覧会も可)に関連し、各館の展示内容やテーマ(作家、素材、技法、様式、モチーフなど)をもとに自主的に企画・実施される地域交流プログラムが対象です。

*展示可能な所蔵作家とその出身地については、当財団のウェブサイトをご覧ください。

◎【Ⅱ-①】「公立美術館共同巡回展開催助成事業(2か年プログラム)」申請方法

- 準備年度：各参加館が申請します。申請書類一式を代表となる館が取りまとめ、直接地域創造へ提出してください(各美術館の設置者である地方公共団体の長の副申が必要です)。なお、助成決定後に実行委員会を設立していただきます。
- 開催年度：準備年度に助成決定を受けた共同巡回展実行委員会より申請します。

◎【Ⅱ-②】「公立美術館共同巡回展開催助成事業(単年度プログラム)」申請方法

各参加館が申請します。申請書類一式を代表となる館が取りまとめ、直接地域創造へ提出してください(各美術館の設置者である地方公共団体の長の副申が必要です)。なお、助成決定後に実行委員会を設立していただきます。

◎【Ⅲ】「公立美術館共同巡回展企画支援事業」および【Ⅳ】「公立美術館共同地域交流プログラム助成事業」申請方法

各参加館が申請します。申請書類一式を代表となる館が取りまとめ、直接地域創造へ提出してください(指定管理者制度を導入している施設の場合に限り、設置者である地方公共団体の長の副申が必要です)。なお、実行委員会の設立は必要ありません。

事業名		対象となる美術館 (*1)	申請について	助成措置		
				助成率 (*2)	上限額	助成期間
【Ⅰ】	市町村立美術館活性化事業	市区町村(政令指定都市を除く)の設置する美術館	参加を希望する各市町村立美術館より申請 ※開催年度は実行委員会より申請	準備年度：10/10 開催年度：2/3	準備年度：100万円 開催年度：1,200万円	
【Ⅱ-①】	公立美術館共同巡回展開催助成事業(2か年プログラム)	都道府県、政令指定都市、市区町村の設置する美術館	<u>3館以上</u> 申請事業に参加する各公立美術館が申請(代表館が取りまとめる) ※開催年度は実行委員会より申請	準備年度：2/3 開催年度：2/3	準備年度：150万円 開催年度：2,000万円	2年間
【Ⅱ-②】	公立美術館共同巡回展開催助成事業(単年度プログラム)		<u>3館以上</u> 申請事業に参加する各公立美術館が申請(代表館が取りまとめる)	2/3	作品借用・展示関連：500万円 カタログ作成関連：300万円	1年間
【Ⅲ】	公立美術館共同巡回展企画支援事業		<u>2館以上</u> 申請事業に参加する各公立美術館が申請(代表館が取りまとめる)	10/10	100万円	
【Ⅳ】	公立美術館共同地域交流プログラム助成事業		<u>2館以上</u> 申請事業に参加する各公立美術館が申請(代表館が取りまとめる)	10/10	100万円	

*1 公立美術館活性化事業における美術館とは、博物館その他を含め、美術作品の公開および保管を行う施設をいいます。

*2 【Ⅰ】の開催年度および【Ⅱ-②】については、対象経費の合計額から収入を控除した額の助成率です。その他については、対象経費の合計額に対する助成率となります。

総合施策の試金石となる「暮らしの文化」と「障害者文化芸術」

制作基礎知識シリーズ Vol.45

変わる文化庁と文化政策②

暮らしの文化と
障害者への取り組み

講師 山名尚志
(株式会社文化科学研究所代表)

*制作基礎知識シリーズ Vol.45「変わる文化庁と文化政策①」は前号(2019年6月号)に掲載しています。

*本項は文化庁にご協力いただきました。改めてお礼申し上げます。

前回^(*)概要を説明したとおり、文化庁の京都移転と文化芸術基本法の成立を契機として、我が国の文化行政は大きな転換期を迎えている。その最大のポイントは、文化行政の従来の所管を越えて広がり、文化庁が横串となって総合的な施策推進の調整役としての役割を担うことが文部科学省設置法に示されたことである。

では、こうした文化行政は、具体的には、どのように展開されていくのだろうか。ここでは、実際に動き始めた例として、暮らしの文化の振興と、障害者への取り組みの2つを紹介する。

●暮らしの文化への取り組み～個別活動の支援から文化全体の総合的振興へ

文化庁では、文化芸術基本法第12条の記載にある「生活文化(茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化をいう。)」及び「国民娯楽(囲碁、将棋その他の国民的娯楽をいう。)」や、「人々が文化的な営みを行う上で欠くことが出来ない文化芸術の観点から、祭礼、年中行事などの有形・無形の文化財等」を「暮らしの文化」と定義し、その振興を図る方針を打ち出している。

実は、この「暮らしの文化」と言われる分野については、これまで、関連省庁による個別の支援が行われてきた。例えば、伝統的な食文化については農林水産省が食育の施策を展開してきているし、工芸品については経済産業省製造産業局で振興施策が実施されている。文化庁では1986年から「国民文化祭」において生活文化に関する展示・実演機会を提供するなどの普及支援を行ってきた。こうした個別施策ではなく、文化庁の新たな役割として、この分野の総合的な振興を図ろうというのが地域文化創生本部の「暮らしの文化・アートグループ」の新たな取り組みとなっている。

そのための第一段階として、文化庁では、はじめて網羅的な実態把握をするため2017年から「生活文化等実態把握調査事業」を実施している。17年に実施した調査結果を見ると、茶道・華道・書道・食文化関連団体や囲碁・将棋・昔からの遊びなどの国民娯楽団体の現況は、

会員の過半が60歳代以上で、会員数の減少も著しく、生活文化等団体による努力で継承することは限界に近づいている実態が明らかとなった。一方、支援の状況を見ると、各地域独自の暮らしの文化については地方公共団体等による取り組みが進みつつあるものの、若者世代が暮らしの文化等を体験する機会を創出するなど全体として取り組むべき施策も明らかとなった。

こうした状況をどう打開し、伝統的な暮らしの文化の継承と新たな創造を支援していくべきか。文化庁としての施策を開発・実施すると同時に、調整役として各省庁や各地方公共団体で独自に展開されている施策や事業全体を取りまとめ、大きな穴がなく、全体としての方向性が整ったものとして体系化していくことが求められる。加えて、その施策の実施にあたっては、「暮らしの文化の振興」に留まるのではなく、基本法の理念に則り、それを通じて地域の経済や社会にどのように寄与するかについても問われることになる。

新たな分野である「暮らしの文化振興」は、そのまま、文化芸術に関する施策を総合的に推進していくという文化行政の新たな姿を示すためのモデルケースにもなっているのだ。

●障害者と文化芸術活動～福祉と文化をどう繋げていくか

2018年6月、「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」(以下、障害者文化芸術推進法)が公布された。その目的は、「文化芸術基本法」と「障害者基本法」の2つの法律の理念に基づき、「障害者による文化芸術活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進」し、「障害者の個性と能力の発揮及び社会参加を促進」すること。つまり、障害者による文化芸術活動については、文化行政と福祉行政が連携して推進しようとしているのだ。これに則り、文化芸術基本法と同様、「文化庁、厚生労働省、経済産業省その他の関係行政機関」による「障害者文化芸術活動推進会議」の設置が定められており、省庁を跨る推進体制が構築さ

●障害者文化芸術活動推進会議

- 外務省国際文化交流審議官
- 文部科学省総合教育政策局社会教育振興総括官
- 文化庁審議官 ※議長
- 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長 ※副議長
- 経済産業省大臣官房審議官(商務・サービス担当)
- 国土交通省住宅局審議官

れている。19年3月には、同推進会議の下で、文化庁と厚生労働省の共同開催による「障害者文化芸術活動推進有識者会議」の検討を経て、「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本計画」が策定され、公表された。

同法の、内容面での最大の特徴は、基本理念(第3条 下記参照)、基本施策(第9条～19条)において、障害者の文化芸術の鑑賞・創造・発表機会の確保・拡大だけでなく、その結果として制作された作品等の評価のための環境整備・権利保護・販売支援・サポート人材の育成にまで踏み込み、国、地方公共団体、関連機関が連携して必要な施策の総合的かつ計画的な推進を図るとした点だ。障害をプラスの多様性として評価するという同法の考え方及びそれに基づく政策内容は、これまでの文化行政や福祉行政における障害者施策のあり方とは一線を画すものとなっている。

全く新しい方向性を提示しているだけに、円滑な実現への不安もある。すでに基本計画策定の段階で、有識者会議から「他の文化芸術から分断された『障害者の文化芸術』という分野ができてしまうのではないか」、「特定の評価のみを前提として『芸術上の価値』が決められてしまうのではないか」などの懸念も指摘されている。また、そもそも文化行政と福祉行政という、これまで交わることの少なかった2つの行政領域、施策のあり方をどうすり合わせるかという課題もある。

障害者文化芸術推進法には、地方公共団体における基本計画の策定(努力義務)についても記載されている。これまで、障害者福祉については、庁内の福祉部局や社会福祉協議会、そこに所属する社会福祉法人などが基本的に担当し、個々人の多様な障害者の状況に向き合ってきた経緯がある。そうした関係性の中に、文化担当セクションとしてどのように分け入っていくことができるのか。単に両者の施策を調整するということでは済むのか。それとも、現場組織を含めた体制を再構築し、全く新しい体系をつくって進めていく必要があるのか。その際のお手本はどこにあるのか。

障害者文化芸術推進法の成立は、国の文化行政だけでなく、地方公共団体の文化行政、福祉行政のあり方にも大きな変更を迫るものになる可能性を孕んでいる。

●文化行政の今後～「総合」の中身をどうつくっていくか

暮らしの文化にしても、障害者による文化芸術活動にしても、その内容は複数の行政領域に跨がっており、施策や事業の実施にあたっては総合的な調整が必須となる。これは、この2つの事例に限った話ではない。文化財行政については、かねてより観光行政との連携が非常に強く言われてきているし、他の文化芸術分野についても、社会的・経済的価値の推進(他の行政分野に係わる領域への寄与)を考慮して推進していくことが求められている。

問題は、では具体的に何をどうすれば「総合的に推進」することになるのかということだ。あくまで文化行政上の目標を第一義としつつ、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業などの行政上の目標とすり合わせるにはどんな推進体制で臨むべきか。過渡期とはいえ、予算のあり方、事業のあり方、効果測定まであまりにつかみどころがなく思える。京都に先行移転した新組織・地方文化創生本部はそうした「総合の中身」をどうつくっていくかの最大のトライアルなのだ。

今後、各地方公共団体の文化セクションも、同じ課題に直面することになる。地域における文化行政の「総合化」とは何か。それぞれの回答が求められている。

●障害者による文化芸術活動の推進に関する法律(基本理念)

第3条 障害者による文化芸術活動の推進は、次に掲げる事項を旨として行われなければならない。

- 1 文化芸術を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であることに鑑み、国民が障害の有無にかかわらず、文化芸術を鑑賞し、これに参加し、又はこれを創造することができるよう、障害者による文化芸術活動を幅広く促進すること。
- 2 専門的な教育に基づかず人々が本来有する創造性が発揮された文化芸術の作品が高い評価を受けており、その中心となっているものが障害者による作品であること等を踏まえ、障害者による芸術上価値が高い作品等の創造に対する支援を強化すること。
- 3 地域において、障害者が創造する文化芸術の作品等の発表、障害者による文化芸術活動を通じた交流等を促進することにより、住民が心豊かに暮らすことのできる住みよい地域社会の実現に寄与すること。

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げて
レポートします

静岡市

ストリートシアターフェス 「ストレンジシード 静岡2019」



上: HURyCAN / 下: 渡邊尚 (頭と口)

● ストリートシアターフェス「ストレンジシード静岡2019」

【主催】静岡市

【共催】SPAC・静岡県舞台芸術センター

【会期】2019年5月3日～6日

【会場】駿府城公園、静岡市役所・葵区役所ほか静岡市内

【プログラムディレクター】ウォーリー木下

【コンセプト】甲賀雅章

【出演】Magik Fabrik (フランス)、HURyCAN (スペイン)、ままごと×康本雅子、梅棒、黒田育世 (BATIK)、範田遊泳、ロコ、山田うん、FUKAIPRODUCE羽衣、ホナガヨウコ企画、KPR/開幕ベナントレース、川村美紀子×米澤一平、いいむろなおきと静岡ストレンジシード、奇劇屋、オイスターズ、劇団こぶく劇場、ブルーエゴナク カゲヤマ気象台、劇団 短距離男道ミサイル、渡邊尚 (頭と口)、突刺金魚、Mt.Fujiほか

*1 ふじのくにせかい演劇祭

1999年に開催されたシアター・オリンピックスを契機に、SPACが世界の舞台芸術の祭典「Shizuoka 春の芸術祭」を毎年開催。2007年に鈴木忠志SPAC芸術総監督を宮城聡が受け継ぎ、2011年から「ふじのくにせかい演劇祭」として再スタートし、静岡県舞台芸術公園、静岡芸術劇場を主会場に開催。

*2 大道芸ワールドカップin静岡

1992年に当時の天野進吾市長のリーダーシップで始まったボランティアによって運営される市民参加型イベント。駿府城公園、中心市街地の商店街などを会場に、国内外約100組のアーティストが参加し、4日間で延べ160万人～200万人が来場。観客とのコミュニケーションとして投げ銭が行われているほか、2泊3日の大道芸カレッジもある。

ゴールデンウィークの最中、5月3日から6日まで国内外26グループが静岡市のまちなか7会場で各20分～30分のパフォーマンスを1日中繰り広げる「ストレンジシード静岡」(無料イベント)が開催された。同時期に開催中だったSPAC(静岡県舞台芸術センター)主催による「ふじのくにせかい演劇祭」^{(*)1}(4月27日～5月6日)の劇場公演や駿府城公園での宮城聡演出による賑やかな野外劇を含め、4日で延べ100パフォーマンスが出現。静岡市が掲げる「まちは劇場」のシンボルイベントを、演劇ファンだけでなく、通りがかりの市民や行楽客が楽しんでいた。



5月5日、6日で、半分くらいのプログラムを見たが、市役所前の屋外大階段に入れ替わり立ち替わり子どもから高齢者まで200人近い人々が座り込み、スペインから招聘されたHURyCANのアクロバティックなパフォーマンス、人気グループ梅棒の面白ダンスに喝采。このほか、デパート前の十字路でダンサーの川村美紀子が昭和歌謡を歌いながら全身ヒョウ柄タイツ姿で踊る体当たりのパフォーマンスや、有形文化財の市役所本館ロビーでの実験劇、駿府城公園の木立を借景した小劇団のお芝居、ジャグラー渡邊尚の軟体動物のようなボディアートを思い思いに楽しんでいた。

印象的だったのは終演後の投げ銭。「よかったよ」と声を掛けながら、慣れた手つきで小銭や千円札を袋や箱に入れていく。こうしたまちなかでのパフォーマンスや投げ銭が自然に受け入れられているのは、1992年から毎年11月に続けられてきた「大道芸ワールドカップin静岡(以下、WC)」^{(*)2}で目に見えないシビック・プライドが培われてきたからだ。今回は東京の人気小劇団、ダンサーなどが多数参加しているが(左欄参照)、こうしたストリートならではの観客とのふれあいがとても刺激的だと話していた。

そもそもストレンジシードは、せかい演劇祭の連動企画として、劇場の外でもフリンジ的なイベントを行い、フェスティバル感や賑わいを創出しようと2016年に始まったもの。SPACの拠点があり、WCや駅前にホールや美術館とい

う資源を有する静岡市では、田辺信宏市長による「第3次総合計画(2015～22)」で「『まちは劇場』の推進」を5大構想のひとつに位置づけ、2018年度から「まちは劇場推進課」を設けるなど体制を整えてきた。

その背景となっているのが、静岡市といえども見過ごすことのできない人口減少問題だ。1990年をピークに人口減に転じて70万人を切ったことから、「誇りを醸成し、まちの魅力や存在感を高め、定住人口に繋がる交流人口を増やす」施策として文化の活力に着目。これまで個別に行われてきた事業を体系化し、せかい演劇祭をトップに、春のストレンジシード、秋のWCをシンボル事業として、芸術のまち・英国エジンバラのようなフェスティバル・シティを目指したいという。

WCを事務局長としてまとめ上げ、昨年までプロデューサーを務めていた甲賀雅章さん(ストレンジシードのコンセプター)は、「WCは静岡を通過する行楽客を街に回遊させる目的でスタートした。25年を経て、大道芸として定着したものとしてのストリートアートとして斬新なことができなくなった。一方、市民のパフォーミングアーツに対する見方が明らかに変わり、いろいろなところで何をやっても見てくれる姿勢が根づいた。ストレンジシードは、アートならではのストレンジ、文字通り奇妙なこと、個性的な人をまちに解き放そうというのがコンセプト。それが公共空間の使い方や、ひいてはまちや市民の価値観を変えていくのではないか」と話していた。

興味深かったのは、5日に行われたシンポジウム。4日で100数十万人を動員するソウル・ストリート・アート・フェスティバルを育て上げたキム・ジョンソク氏が登壇。「日頃、疎外されている人々が集まることで生きる意義を見つけることができる。ストリートアート・フェスの理念は、人々が求めているもの、表面的に出てこない問題を発見し、想像力で質の高い芸術的なものに昇華し、生活しているすべての人が公共空間で共に分かち合うこと。それこそが文化福祉だ」と言う彼の言葉に、ストレンジシードの精神が集約されていると思った。(坪池栄子)